

■2012 年合格目標 受験経験者対象ガイダンス
「1・2 次試験合格を実現する戦略」補足資料

★今日の目標

学習方法の仕方をイメージする

→ただ、闇雲に回数・時間を積み重ねるのではなく（量ではなく）、質を高める。

質を高める前提の考え方として…

戦略的に合格することが重要です。

→戦略的とは…

- ①効率的（ムダがない）
- ②効果的（点が取れる）

ということです。

つまり、効率的なカリキュラム・学習方法、効果的なカリキュラム・学習方法などが重要となってきます。

本ガイダンスでは、上記（主に学習方法）について少し触れていきたいと思います。

★題材は平成 23 年度 1 次試験の財務会計、第 9 問、第 11 問を使用しています。

【前提】

診断士の 1 次試験は「電卓が使えない」試験となっています。

これに対して異論はあるかと思いますが、電卓が使える試験になってしまうと、

- ・桁数が増加する
- ・問題数が増える
- ・計算も複雑になる

といったことが想定されます（つまり、受験対策がより面倒になるということです）。

逆に、「電卓を使わなくても大丈夫な試験」というように捉えましょう。

→第 9 問の話（効率的な学習方法・問題の解き方）

一方、第 11 問は解き方も重要ですが、復習の仕方も重要です。

一般化して他の問題にも対応できるようにしましょう。

→効果的な学習方法

第9問

A 社と B 社の貸借対照表（要約）と損益計算書（要約）は次のとおりである。これらに基づいて下記の設問に答えよ。

貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

資 産	A 社	B 社	負債・純資産	A 社	B 社
現 金 預 金	120	50	支 払 手 形	70	40
受 取 手 形	80	70	買 掛 金	140	60
売 掛 金	160	80	短 期 借 入 金	90	50
有 価 証 券	40	50	長 期 借 入 金	100	150
たな卸資産	100	150	資 本 金	200	120
有形固定資産	240	160	資 本 剰 余 金	140	110
無形固定資産	60	40	利 益 剰 余 金	60	70
合 計	800	600	合 計	800	600

損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	A 社	B 社
売 上 高	1,200	1,000
売 上 原 価	800	700
売上総利益	400	300
販売費及び一般管理費	280	190
営 業 利 益	120	110
営業外収益	90	40
営業外費用	30	20
経 常 利 益	180	130
特 別 利 益	40	30
特 別 損 失	20	10
税引前当期純利益	200	150
法 人 税 等	80	60
当期純利益	120	90

(設問 1)

売上高売上原価率、売上高営業利益率、総資本回転率について、A 社が B 社より良好な場合 (㉔で表す) と B 社が A 社より良好な場合 (㉕で表す) の組み合わせとして最も適切なものはどれか。

- | | | | |
|---|------------|------------|----------|
| ア | 売上高売上原価率：㉔ | 売上高営業利益率：㉔ | 総資本回転率：㉔ |
| イ | 売上高売上原価率：㉔ | 売上高営業利益率：㉔ | 総資本回転率：㉕ |
| ウ | 売上高売上原価率：㉔ | 売上高営業利益率：㉕ | 総資本回転率：㉔ |
| エ | 売上高売上原価率：㉔ | 売上高営業利益率：㉕ | 総資本回転率：㉕ |
| オ | 売上高売上原価率：㉕ | 売上高営業利益率：㉕ | 総資本回転率：㉔ |

(設問 2)

流動比率、当座比率、固定比率について、A 社が B 社より良好な場合 (㉔で表す) と B 社が A 社より良好な場合 (㉕で表す) の組み合わせとして最も適切なものはどれか。

- | | | | |
|---|--------|--------|--------|
| ア | 流動比率：㉔ | 当座比率：㉔ | 固定比率：㉔ |
| イ | 流動比率：㉔ | 当座比率：㉔ | 固定比率：㉕ |
| ウ | 流動比率：㉔ | 当座比率：㉕ | 固定比率：㉔ |
| エ | 流動比率：㉕ | 当座比率：㉕ | 固定比率：㉔ |
| オ | 流動比率：㉕ | 当座比率：㉕ | 固定比率：㉕ |

第 11 問

公表されている Y 社の経営指標は、損益分岐点比率が 75%、売上高営業利益率が 10%、営業利益が 1,600 万円である。変動費率として最も適切なものはどれか。

- ア 25%
- イ 40%
- ウ 60%
- エ 90%